much like those of *Pallavicinia longispina*, on which Tatuno (1941) and Segawa (1965) made detailed observations.

Literature Cited

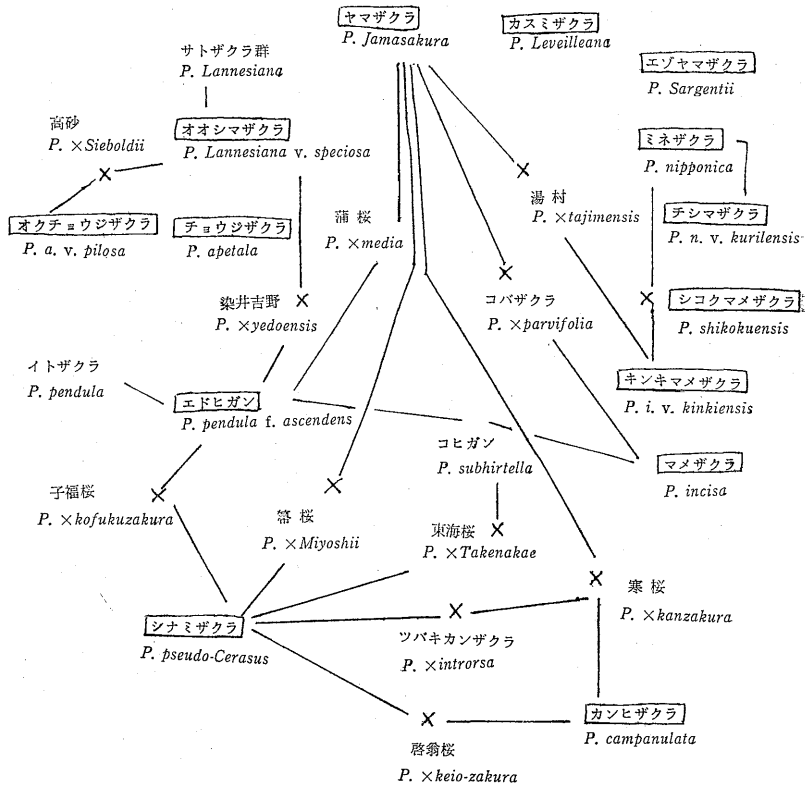
Heitz, E. (1927). Abh. Naturw. Ver. Hamburg, **21**: 48–58. Inoue, H. (1967). Bot. Mag. Tokyo, **80**: 172–175. —— (1968). Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo, **11**: 397–403. —— (1974). Illust. Jap. Hepat., pp. 189, Tokyo. Lorbeer, G. (1934). Jahrb. Wiss. Bot. **80**: 567–818. Müller, K. (1954). In Rabenhorst's Kryptogamen-Fl. v. Deuts., Oester. u. Schw., **6**(4): 481–640. —— (1956). Ibidem **6**(8): 1077–1220. Newton, M. E. (1973). Journ. Bryol. **7**: 379–398. Schuster, R. M. and H. Inoue (1974). Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo (in press). Segawa, M. (1965). Journ. Sci. Hiroshima Univ. ser. B, div. 2, **10**: 81–148, 149–178. Steere, W. (1972). Journ. Hattori Bot. Lab. **35**: 99–125. Taturo, S. (1935). Bot. Mag. Tokyo, **49**: 628–635. —— (1941). Journ. Sci. Hiroshima Univ. ser. B, div. 2, **4**: 73–187. —— (1947). Jap. Journ. Genet., suppl. **1**: 119–121.

* * * *

日本産苔類19種の染色体数を調べた。このうち8種については染色体数がはじめて報告されるものである。また，*Blepharostoma minus* および *Nardia subclavata* の2種は倍数体起源のものであることがわかった。苔類の染色体は大部分の種で n=9 であり，変異性にとぼしいが，これまで報告された種類数も蘚類などと比べて少なく，充分な解析がおこなわれているとはいえない。しかし，*Calypogeia* 属や *Nardia* 属では倍数性の問題も含め，種の分類に染色体数が充分考慮されなければならないことを示すデータが出ている。同じことが日本特産とされる *Moerckia erimona* についてもいうことができ，ヨーロッパ産の *Moerckia* 属では n=9 が報告されているが，日本のものは n=8 で，他の形態的なことからも，*Moerckia*属に含められるかどうか問題となる。

□大井次三郎・太田洋愛： **日本桜集** pl. 154, pp. 325. 平凡社，東京 (1973) ¥27,000 (J. Ohwi and Y. Ohta: Flowering cherries of Japan). こゝ数年，太田洋愛氏が毎春桜をたずねて日本中を歩いているときいていたが，それがこの見事な画集に結果をした。画は一々頁大に描かれ，対面に大井氏が解説を与え，また太田氏の花の縦断面が載せてある。全体は品種名の横文字のアルファベット順である。各解説の末尾には

多くは新たにつけられた園芸上の学名が cv. として与えられている。さすがに太田氏が打ち込んだだけはあって図はすぐれているし，解説もまた大井氏の筆で多くを語らぬが委局をつくしている。全部とはいえぬが主な品種はほとんど網羅されているのは，何といってもありがたいことで，太田，大井両氏にお礼を申上げるところである。

たゞ品種の配列が特殊であるために，近以の品種が遠くにとび，また各所に散在するのは一面，各種の類縁を知ろうとするものにとってまことに不便であったので，思い切って全図譜を一々調べて類縁図を描いてみた。これは勿論原著者の見解をそのままうつしたものであるが，排列はなるべく系線が交叉しないようにつとめた。そしてここにヤマザクラ中心とシナミザクラ中心との二中心があることが明らかとなり，ことに後者を導入する見解に打たれたのである。　　　　　　　　　　　　　　(前川文夫)

本書に現われた日本のサクラの類縁図.（前川描く）
□ 内は主に原種，その他は間種を示す.